

2022年 図書館だより

7月6日までは、8時30分～19時までの通常開館
7月8日(金)～23日(土)
開館時間:平日 8:30～16:30, 土曜日 8:30～14:00
*但し、日曜日と祝日は休館、
都合により7日(木) 9日(土)は休館です。



★夏休み長期貸出を開始しました。

返却日は、9月1日始業式です。一人5冊借りることができます。私は、本を読むことで、心のイライラやストレスが取れていくとを感じる事があります。読書は、動画と違って、自分のペースで内容を理解し、処理することができるので、読み終わった後、落ち着いた気持ちになっています。活字が苦手でも、写真集や絵本などをながめるだけでも、心が穏やかになる効果があるそうです。ぜひ、この機会に図書館に来て、本を手にとってみてください。

★1年生図書委員からのおすすめ本を紹介します。

★「夏本」特集

特別展示として、「夏」をテーマにした小説を展示しています。部活や恋愛、ミステリー、ホラーなど色んな本を集めてみました。

★コンクールに応募してみませんか？

「読書感想文」「読書体験記」「一行大賞」などの、コンクールに参加してみませんか？自分の思いを文章にすることは、論理的に考える練習になります。ぜひ、「チカラ試し」をしてみてください。

『はてしない物語』

ミヒヤエル・エンデ 著 岩波書店



古本屋で見つけた『はてしない物語』をどうしても読みたくて盗んでしまったバスチアン。その本の中の国、ファンタジーエンは「虚無」に飲み込まれてしまいそうでした。そして、その国の女王、幼ごころの君は重い病に臥せていました。本を読み進めていくうちに、バスチアンは物語の世界へと入ってしまいました。バスチアンの心の移り変わりや、物語の中の生き物たちの言動が、細かく描かれているのがおもしろいです。

『すきまのおともだちたち』

江國香織 著 白泉社

庭で育てたレモンの木からレモネードを作り、針仕事で暮らしている「おんなの子」。両親は最初からなく、車も運転できる古びた「お皿」と住んでいる。仕事で訪れた街で道に迷い、帰れなくなった新聞記者の「私」は客として彼女にもてなされることに。いつまでも変わらないものが存在し続ける場所で出会った少女の成長物語です。



図書館入口
「夏本」特集

第68回青少年読書感想文コンクール

締切 令和4年10月3日(月) 必着

校内締切 令和4年9月5日(月)

注意事項 ・対象書籍は、マンガ、電子書籍以外の本。

・字数は1801字から
2000字以内

他にも応募
できるコンクールがあり
ますので、詳しく知りたい人
は図書館カウンターに、
お尋ねください！



コンクールに、応募してみませんか？

第42回高校生読書体験記コンクール

単なる感想文ではなく、読書をすることで始まった自分の内面や生活の変化、読後に起きた様々な変化を、自ら見届けけるような「体験記」を書いてください。

締切 令和4年9月30日(金)(当日消印有効)

校内締切 令和4年9月5日(月)

注意事項 ・どのようなジャンルの本でもよい。

(マンガ、絵本も可)

・400字詰めたて書き原稿用紙 5枚

・作品は、未発表でオリジナル

新潮文庫第10回中高生のためのワタシの一行大賞

対象図書の中から、あなたの心に深く残った「一行」を選び、なぜその一行を選んだのかを100～400文字で書いてください。あらすじの紹介や、作品を解説するような読書感想文ではなく、できるだけ自分の“想い”や“エピソード”を書いてください。

*ここでいう「一行」は、字義通りの一行ではなく「一文」もしくは「ひとかたまりの意味をもった言葉の連なり」という意味です。

締切 令和4年9月30日(金)(当日消印有効)

校内締切 令和4年9月5日(月)

対象図書 : 2022年「高校生に読んで欲しい50冊」「新潮文庫の100冊」選定作品

一年生図書委員からの おすすめ



『流浪の月』

風良 ゆう 著 東京創元社



「誘拐犯」と「被害者」。周りからみれば、憎しみ合う二人ですが、実は誰よりも信頼できる人だったら、...という今まで考えたことのないテーマに驚き、一気に読んでしまいました。この本は、2020年本屋大賞を受賞していて、22年5月には、映画化もされた話題作です。私は、小説を読み返すことはあまりしないのですが、そんな私が読み返してしまうほど感動した本です。

『フォルトウナの瞳』

百田尚樹 著 新潮社



主人公慎一郎は「他人の寿命」を視ることができる力=フォルトウナの瞳で、たくさんの人を助けようとしていますが、その代償に自分が「死」に近づいてしまいます。沢山の人の助けたい、けど死にたくない、というもどかしさや葛藤の中で、「愛する人」を救うために、慎一郎はある決心をします。本の中には、たくさんの名言が出てくるので、感動しました。読みやすい文章になっているので、小説を読みなれていない人にもおすすめできる作品です。